

「子どもたちの夏：高知市南海中学校のよさこい祭り」

Summer-Time of Children : Yosakoi Festival at
Nankai Junior High School, Kochi City, JAPAN

岩 井 正 浩
Masahiro IWAI

1. はじめに

高知新聞2013年8月12日付に、第60回よさこい祭りと子どもたちについての特集「よさこいの未来 君たちに」が掲載された。よさこい祭り取材班は次のように論じている。

60回目の“還暦”よさこい。熱波をものともせず、子どもたちは跳びはねた。よさこい、どこが楽しい？ 「メダルがもらえる」「友達と一緒に踊るのが超楽しい」「おばあちゃんが見に来て喜んでくれる」… 小学6年の女の子は「なんか分からんけど、とにかくたのしいがって」。一生懸命になって悪い？ そう言いたげだった。

ある3年生の男の子はこの夏、親に勧められ、初めて踊った。最初は嫌々の練習通い。「疲れるけど、なんか楽しい。ストレス発散になる」。新しい友達もできたそう。鳴子を鳴らしながら前へ進む、シンプルな踊り。難しいことを考えなくても何だか楽しい。年の離れた人と気持ちがつながったり、やんちゃな子がいつの間にか年下の子の手を引いて踊りだしたり。ある郡部のチームのスタッフは言った。「子どもはすごい。おとなしかった子に自信が生れる。それが目に見えて分かる。別にずっと、よさこいをせんでもえいがよ。たくましく生きてくれたら」

還暦から古希、喜寿、米寿そして100歳、200歳…。子どもたちがいれば、よさこいの、高知の未来はいつまでも続く。

1954年の第1回開催から60年を超え、よさこいは高知の新しい祭りとして子どもたちを育み、子どもたちの表現活動をつき動かしてきている。2015年9月25日付の高知新聞「鳴子踊り小学校で健在」は、高知市の8割32校の小学校が運動会でよさこいを披露しているとして次のように論じている。

曲や振り付けを自作する学校もあるが、最も多いのは祭り本番に出場したチームから提供してもらう手法。今年の運動会でも18校が既存チームの曲を使った。(中略) 一方で人気薄なのが正調踊り。「おしゃれじゃないので子どもが乗ってこない」「運動というには振り付けがおとなしい」などが敬遠される主な理由。(中略) そんな中、よさこい祭振興会もこのほ

ど、よさこいの振り付けDVDを制作し、10月にも高知市内の全小中学校と幼稚園、保育園に配布する。担当者は「高知の子どもによさこいの魅力を知ってもらいたい。ソーランに負けているわけにはいかない」と話す。DVDには正調のほか、人気歌手グループGReeeeNが作曲した「この地へ〜」など、現代風の振り付けも2曲収録した。鳴子の鳴らし方解説や、よさこいの歴史を紹介する映像も付けている。(後略)

高知市でよさこい祭りが今日まで成立してきたのには様々な理由があるが、その一つに県人口が高知市に集中し、高知市が新しい文化創造に有効な状況を作り出していることがある。全国3位という県都への人口集中はここ50年で30%→45%(高知新聞 2015年9月24日付)になり、よさこい祭りの成立・進化と連動しているようでもある。

高知よさこい祭りは2015年で62回を終えた。歴史的に概観すると子どもたちの活動の推移が見て取れる。その中心は高知市の子ども会活動であり、保育園・幼稚園活動である。全体としては町内会・商店街チームを底辺とし、クラブチームと企業チームが祭りの中心的役割を果たしている。本稿では、よさこい祭りにおける賞(グランプリ、金賞、銀賞など)とはあまり関係はないが、子どもの発達に大きな役割を果たしてきた子どもたちの活動に焦点をあて、高知市教育委員会『よさこい支援事業』に基づく南海中学校のよさこい祭り出場の意味と意義について論じる。

2. 高知よさこい祭り

高知よさこい祭りは、戦後日本の夏枯れ現象を克服し街の活性化を目指し1954年に成立した新しい都市の祭りである。

音楽は武政英策氏に依頼。武政は前半部を半音を含まない民謡音階で作曲し、後半部に近世邦楽調の半音を含む都節音階の土佐民謡《よさこい節》を連結させた。踊りは日舞5流派によって制作された。チームを先導する地方車は現代版山車、司令塔であり、楽団、PAを搭載し、踊り子に大音量で音楽を流す。地方車の屋上は指導者による指揮・扇動を行う司令塔である。両手に持つ鳴子は水田の雀追い鳴子からアイデアを得ている。そして衣装・ヘアスタイル・メイクなどが踊りを彩る。祭りを決定的に進化させてきたのは「自由性」である。音楽は《よさこい鳴子踊り》の一部が含まれていればどのようなアレンジも可能。そのため時代・地域・ジャンルを問わず多種多様な音楽と踊りが毎年制作されることとなった。高知よさこい祭りとしての音楽の他の必要条件は、鳴子を持つことと前進することである。これらの条件はシンプルであるため、若者をはじめとする人びとに迎えられた。

第1回大会(1954年)、21チーム、750人で立ち上がった高知よさこい祭りは、2003年には第50回を経過しさらに進化を続けている。中でもよさこい祭りの転換点となったのは第17回「日本の祭り10選」(1970年)での大阪万博出場と、第19回フランス・ニースカーニヴァル出演(1972年)であった。1970年代からサンバやロック調、エレキバンドなどが次々と登場し、よさこい祭りは自由な発想で自由なパフォーマンスを謳歌する祭りとなり、2015年の第62回大会では出場チーム205、踊り子18,000人を擁し、8月9～12日の4日間の祭りとしてさらなる進化を続けてきている。その中で特筆されるのは、16の競演場・演舞場設置であり、踊り子への接待を行うなどコミュ

ニティ活動の軸となっている町内会・商店街チームの活動である。さらに高知よさこい祭りは1998年には札幌に伝播し「YOSAKOIソーラン祭り」となり全国各地によさこい系祭りを次々と成立させてきた。

3. 子どもチームの活動

子どもチームのジャンルには、乳幼児・保育園、幼稚園、小学生、中学生、高校生チーム、そして町内会、商店街、さらには企業チームがある。ただ町内会、商店街、そして企業チームは一貫して子どもが対象となっていたのではなく、ある時期から子どもを入れたり、子ども主体のチームにしたりという形が多い。「上町よさこい鳴子連」は62回皆勤、現在は小学4年生から中学3年生の女子を中心としたチームで、中学を卒業するとチームから離れ、他のチームへと移籍するのが定石となっている。また「サニーグループ」は第56回（2009年）から小学3年～中学3年までのチームに衣替えしている。さらに数多くのクラブ、企業チームも大人に交じって子どもたちが出場しているケースがあり、子どもの出場活動はかなりの数に上ると思われる。

第1回から第62回までの子どもチームの活動は次の通りである。（表1「子どもチーム（第1～第62回の参加）これによると、子ども会と名が付くチームは19、保育・幼稚園は14チーム、障害者学校等は6チーム、小・中学校は4チーム、そしてその他は12チームである。ただこの集計は、途中で何度もチーム名を変更したり、合併や分離したチームが多々あるため多少の誤差は生じている。

子どもチームの出場は、第1回＝1、第2回＝2、第3回＝2、第4回＝1、それ以降は5～8回までゼロである。開催当初は町内会チームが主導的で、子どもチームは第27回まで0～2程度の出場が続き、第28回(1981年)頃から微増し、第30回大会から10チーム以上に増加していく。そして第47回(2000年)から20チームを超し、最大で26チームが出場を果たしている。子どもチームを常に牽引してきたのは各地区の子ども会チームと保育・幼稚園チームである。20回以上をみると、子ども会チームでは「高知市子ども会連合会」37回、「五台山校区子ども会」25回、「大津子ども会連合会」29回、「帯屋町筋ジュニア隊」28回、「すみれ子ども育成会」27回、「高須子ども会」24回である。また保育・幼稚園チームでは、「くるみ幼稚園」37回、「学校法人やまもも学園桜井幼稚園」24回、「同・芸術学園幼稚園」24回、「杉の子3園ちびっこ隊」31回、「みさと幼稚園」35回、「みかづき幼稚園」33回、「みかづき第二幼稚園」34回、である。

4. 『高知市子どもよさこい支援事業』

これら高知市内の子ども会、保育・幼稚園の出場は、高知市内の子どもたちにとって恒例の夏休みの活動として継続されてきた。そして成長するとクラブや企業チームに入って継続して活躍をする子どもたちも数多い。学校関係では高知市が2002年度から『高知市子どもよさこい支援事業』を打ち出した。その趣旨は次の通りである。

（前略）よさこい鳴子踊りは土佐の夏の風物詩として、毎年全国から多くのよさこいファンが集まるエネルギーでパワフルな南国土佐のサマーカーニバルである。高知市内15ヶ

所の競演場・演舞場では、約150団体、1万7千人程の踊り子が衣装や踊りに工夫を凝らし、チームを先導する地方車の装飾も華やかで、街中は祭り一色に包まれる。

しかし、その高知を代表する文化に地元の中学生の参加が少ないと言われるようになって久しい。よさこいが大がかりな祭りになるにつれ、衣装代やバス代等参加費自体も数万円を超えるようになり、中学生が気軽に参加できるような金額ではなくなっている。また、各種団体も諸事情から、中学生の受け入れを断っている現状もあり、中学生は参加したくても参加できず、小学生や大人が踊っているのを見ているだけになってしまっている。昨今のよさこいブームで、各都道府県の中学生在が学校単位や地域単位で、参加し教育的にも大きな成果をあげていることを思えば、「よさこい」本家もただ黙ってこの現状を見過ごすわけにはいかない。そこで、よさこい祭りに高知市内の中学生のチームを立ち上げ、参加事業を起こすことに至った。

この伝統あるよさこい祭りに高知市内の中学生のチームを立ち上げ、参加する事業を起こすに至った。この事業を通じて、高知市内の中学生が故郷の祭りにともに参加しながら高知の誇りある文化に親しみ、中学生同士の交流と親睦を深めながら、次世代の文化の担い手を育成するとともに、中学生が地域と結びついた体験活動を進めていくようにさせたい。

「子どもよさこい支援事業参加募集要項」では、

（前略）ここ数年、体育祭や文化祭において、地域の芸能やよさこい鳴子踊りに取り組んでいる中学校もあり、開かれた学校づくりや各校の特色を生かした活動の一環として、踊りの創作、地方車や衣装のデザイン、鳴子の製作など、生徒の創意工夫を生かす学習の場として、よさこい祭りへの参加を募集する。

主催は高知市教育委員会で、「実施方法」「参加対象・人数」として

参加する学校と教育委員会で「子どもよさこい実行委員会」を組織し、企画・立案等の参加に関わる内容を検討する。参加対象・参加人数は市立中学校を単位として、中学生100人までとする。

とし、「その他」で費用負担などについて次のように規定を定めている。

バス代、トラックレンタル代、発電機・音響設備レンタル料・照明レンタル料、振付料、衣装代等々は業者委託を行い、その費用は教育委員会が負担する。学校の取り組みとして、地方車の装飾や衣装のデザイン、振付等、生徒の自主性や手作りのよさを生かし、また、地元の人々の協力も得ながら運営していくことも可能である。

（高知市教育委員会 2002 pp. 1－2）

『高知市子どもよさこい支援事業』に対し、3校が応募した。それらは「Minami風—南海中学校」、「旭中学校」そして「合同チームき・ら・り」であった。（表2「年度別出場記録」（高知新聞「出場チーム紹介」）

5. 「Minami風—南海中学校」の活動

南海中学校がこの『高知市子どもよさこい支援事業』に応募した理由について、当時の校長原

国夫氏は「よさこい祭りに参加して」で次のように語っている。

（前略）本校は昨年度、校内に於いて授業エスケープをはじめ、数々の問題行動が起っていました。（中略）そんな時、降って湧いたように出てきたのが、この「子どもよさこい支援事業」でした。『南海中の生徒には多くの可能性と、まだ開発されていない力がある。物事にまっすぐに取り組んでいこうとする純粋な気持ちがある。だが、現状をみたとき、さまざまな課題に積極的に取り組もうとするには自信がなく、消極的な面があり、時には、反社会的な行動につながる面も見られる。また、明るい未来に向けて、よい面を行動化しようとする姿勢が弱い。』（職員会資料）

このような南海中の子どもたちを、『他校に先駆けて、高知市の中学生の代表としてよさこいに取り組むこと。それを、力を合わせて成し遂げることで【元気】と【自信】をつけ、将来への【生きる力】へと結び付けたい。そして、南海中学校と校区・地域の本来持っている力を再認識し【新生南海】への足がかりとしたい。』として職員会で審議しました。

しかし、なにぶん初めての取り組みであり、「よさこい」のノウハウを持たない我々にとって、未知の部分に対する不安と心配は、決して小さいものではありませんでした。当然の、「よさこい」参加に対して、反対・慎重論がありました。そんな中で、『子どもたちを何とかしたい。あの子達の持っている力を少しでも伸ばしたい。』という、職員の前向きな気持ちですが、『「よさこい」参加を千載一遇のチャンスと捉えよう。』として応募に踏み切ったのです。（中略）

そして、迎えた「よさこい」本番。豪雨の中での競演や、鳴子がしゃもじになるといったハプニングもありましたが、たくさんの笑顔と喜び、さわやかな感動とともに、「Minami風」は見事に吹き抜けました。

この「よさこい」参加で、子ども達が様々なことを学び、すばらしい思い出を残したことは、感想文から十分に知ることができます。そして、「よさこい」で得た【元気】と【自信】は、2学期の学校生活の様々なところに、プラス効果を見せています。よしんば、プラス効果が、今見えなかったとしても、一つの目標に向かって、南海中のなかまと力を合わせて取り組んだ体験は、彼らのこれからの人生に、いろいろな形で花を咲かせ、それぞれの実をつけてくれるものと信じています。（後略）（高知市教育委員会 2002 pp.39-41）

中学生の潜在的な力を「よさこい」が実現させた一つのケースとして、南海中学の実践があった。その活動を検証する。

- （1）ねらい（平成16年度）＝①高知市の中学生の代表としてよさこいに取り組むこと、それを力を合わせて成し遂げることで【元気】と【自信】をつけ、将来の【生きる力】へと結びつける。
- ②南海中学校と校区地域の本来持っている力を再認識し、【新生南海】への足がかりとする。
- ③開かれた学校づくりや各校の特色を生かした活動の一環として、踊りの創作、地方車や衣装のデザイン、鳴子の製作など、生徒の創意活動を生かす学習の場とする。
- （2）チームコンセプト（平成16年度）

チーム名 Minami風—南海中学校—

テーマ 「風になれ！ 光になれ！ 虹になれ！」

楽曲、振り付け、衣裳、楽器などすべて沖縄をイメージした。生徒の企画力をさらに引き出し達成感と自信を持たせることを大切にしている。

参加人数 (踊り子 : 生徒78名 教職員等 12名)

(スタッフ: 生徒7名 教職員等 20名)

(3) 組織 (平成14年度)

初出場としての平成14年度の「組織」は、「子どもよさこい事業推進委員会」と「プロジェクトよさこい南海中実行委員会」で構成している。(表3)

よさこい祭り初参加を目指し、南海中学校では2年生が中心となり、企画立案等の参加に関わる内容を検討している。「子どもよさこい事業推進委員会」に学校、アドヴァイザーそして高知市教育委員会を置き全体の企画運営を行い、その傘下の「プロジェクトよさこい南海中実行委員会」で教職員と生徒がそれぞれの役割を分担している。役割は衣裳部、指導部、地方車部、報道・記録部、本部からなり、<生徒のとりくみから>で表4～6を打ち出している。(衣裳部(表4)。

③地方車部 (表5)。④踊り子部 (表6))

日程は『学習 練習 推進委員会』として4月8日の「募集要項を各中学校配布」から始まり、5月には「よさこい申込」、「インストラクター決定」、6月の岡崎直温氏による「聞き取り学習」、「歴史学習」、「衣装・地方車デザイン決定」、7月に練習を開始し、「鳴子組立て・接着」、「地方車製作開始」、「衣装サンプル完成」と続く。8月に入ると「地方車製作」が継続し、「業務必携づくり」を経て8月10・11日の本番に臨む。そして12日には「地方車解体・反省会 レンタル類返却」をして平成14年度の初参加の全日程が終了する。

「よさこい祭り係分担」を決めるための希望調査は次の要領で行っている。

2年生は総合学習の一つとして「よさこい祭り」に参加します。全員がどれかの係に参加して祭を成功させるよう頑張りましょう。下の表をよく見て参加したい係を決めて下さい。第1～3希望まで書いてください。

①衣裳部：衣装（はっぴ）のデザインをします。あなたのデザインが実際の衣装となってできあがってきます。デザインや絵に興味がある方大募集！！

②地方車部：スピーカーやバンドのメンバーを乗せるトラックの装飾をします。様々な素材を使って今までにない地方車をつくりましょう。「地方車賞」もあるそうです。力持ちさん、ものの作りの好きな方大歓迎！

③報道・記録部：ビデオやカメラを使って、デザインや作業工程、踊りの練習風景を記録していきます。また、「よさこい祭り」に関する調べ学習も行います。テレビからの取材もあるかも？

④踊り子部：もちろん「よさこい祭り」当日の踊り子です!! 体力・気力ともに必要です。体を動かすことが好きな方、自分をちょっと変えてみたいと思っている方ぜひトライしてみましょう。鳴子作りも行います。(高知市教育委員会 2002 p.12)

6. おわりに

2011年8月9日、10年目を迎えた「Minami風—南海中学校—」は、最後の出場となった。高知新聞（2011年8月9日）には、「よさこい10年目 有終の美：高知市・南海中チーム『Minami風』」の記事が掲載された。

よさこい祭りに9年間出場してきた南海中学校（高知市長浜）のチーム「Minami風」が、10年目となる今年で出場にピリオドを打つ。多感な年ごろの生徒が一つにまとまる教育的効果の高い恒例行事だったが、授業時間の絡みで泣く泣く撤退。生徒たちは「最後で最高の踊りを見せたい！」と、これまで最多の130人の踊り子隊を編成し、有終の美を飾る。（田村文記）同校は2002年、中学校単位のチームとして県内で初めてよさこいに出場。以来、鳴子や衣装の製作、地方車の飾り付けなどに生徒たちが汗を流しながら毎夏、祭りに臨んできた。05年には資金難から出場が危ぶまれたが、保護者らの支援もあって、連続出場を途切れさせなかった。ところが、来年度から新学習指導要領が本格実施になり、これまで準備や練習に充てて来た「総合的な学習の時間」が年間数十時間単位で削減されることに。教員らは継続を検討したが、どうしても時間繰りがつかず、結局、「祭り参加は不可能」と判断した。生徒や地域にはこれを惜しむ声もあるが、子どもたちは最後の祭りに向けて全力疾走。3月に実行委員会を立ち上げ、着々と準備してきた。これまで踊り子は2、3年生だけに絞って100人程度だったが、今年は1年生を含め、希望する生徒は全員参加にした。踊らない生徒も裏方で活躍。木材加工にはじまり、260本の鳴子のばちの一つから製作し、60本分のズボンと帯も新たにぬい上げた。例年より30人ほど多く、準備段階の苦労もあったが、「最後やき、これまでで一番いいものにしたい」と生徒たちは張り切る。チームづくりの経費は約150万円。高知市からの補助金32万円以外は生徒が事業所や個人を回って、広告やうちわ、Tシャツなどを売って調達した。過去、学校が「落ち着かない」年もあったというが、祭りへの取り組みを通し、多くの生徒と一緒に苦労することで団結力が生まれて、いろんなことを克服してきた側面も。「Minami風」で踊った卒業生からは「人を信じ、みんなで一つのことをやるって本当にいいという声が聞かれる。チームはよさこい本番を前に6日、校区の「浦戸の夏祭り」に登場。若さはじける踊りに、地域の人から「追手筋でも頑張れ！」の声援が飛んだ。実行委員長で3年生の上島広大さんは「10年の長い歳月を支えてくれた先輩や地域の人への感謝を込めて踊ります」。学校、地域の思いを一つに、子どもたちが踊る夏！

10年間という限定された出場であったが、「新学習指導要領」の本格実施による「総合的な学習の時間」が削減され中止に追い込まれたことは残念である。子どもが全てを手作りで作り上げ、生き生きと笑顔が生れる「場」が実践として成果を挙げてきたことは評価に値する。しかし国レベルの教育政策で中止措置を取らざるを得なかったことは惜しまれる。

今回は紙面の都合のため『高知市子どもよさこい支援事業』として出場した旭中学校、および合同チーム「き・ら・り」、また高知市内の小学生を結集し今日まで37回連続出場を果たしてきた「高知市子ども会連合会」や28回出場の商店街「帯屋町筋ジュニア隊」などの子どもチームについて論じることができなかったが、数多くの子どもチームが62年間、よさこい祭りに出場を果

たしてきた。踊る舞台は、支えてくれた校区・地域、追手筋の日曜市が開かれる解放された一般道路、地域の競演場・演舞場、また帯屋町アーケードというまさに非日常の舞台であった。8月10・11日の本番では、地方車上の司令塔で踊りを指揮し煽る中学生の姿があった。6年目を迎えた2007年の新しい「組織図案」(表7)、「月別活動計画」(表8)、そして最終1年前の2010年の「役割分担」(表9)、および「当日の仕事」(表10)では、PTA組織、教職員組織そして生徒組織がより進化し、機能的に作成されている。子どもたちは楽器制作部、衣裳部、地方車部、報道・記録部そして踊り子部という活動部を自主的に作り上げてきた。写真①②は「鳴子制作」、③「地方車」、④地元での演舞、⑤⑥「地方車の司令塔での指揮・煽り」、そして⑦⑧は帯屋町アーケードでの演舞である。2002年に初参加した南海中学校生徒の手作りよさこいは、年を重ねるとともに大きく進化した。子どもたちにとって意欲と達成感は、祭りをきっかけとして限りなく成長していくことを立証している。新しい都市の祭りであるよさこい祭りが子どもたちに生き生きとしたやる気と笑顔、そして将来への希望を育ませたことは、現代の子どもの成長にとって重要なヒントを生み出していると言える。

夏、暑さと雨が容赦なく踊り子たちにふりかかることも多々ある。筆者も以前に「上町鳴子踊り子隊」や「帯屋町筋」の地方車に搭乗した調査で体験している。しかし祭りの高揚はすべてを吹き飛ばしてくれていた。南海中学校の子どもたちが準備段階から本番にかけて作り上げた体験は、『Minami風—南海中学校—感想文集』(冊子)(南海中学校2002)に数多く語られている。下記は2002年初出場の3年生女子の感想である。

初めて、私自身よさこいに参加して、ドキドキしました。それも南海中学校として、団体で出るのも初めてだったし、中学校の代表として参加するんだから、すごく緊張しました。間違えないように踊れるだろうか？とみんなと息を合わせてできるだろうか？と不安に思っていて、いつも練習していました。が、本番当日、大雨の中みんなと踊って心が一つになってきたなぁと実感していました。その日の最後の競演場「追手筋」では先生も生徒も一つになって踊れたと思いました。2日目もみんな最後まで、後悔しないようにはりきって踊ったと思います。中学校生活最後の年にすごくいい思い出ができたと思います。感謝の気持ちと良い思い出をありがとうございました。

最後に、資料の提供などご協力をいただいた現高知市立南海中学校校長大谷明彦様、南海中学校の当時よさこいプロジェクトの子どもたちに感謝申し上げます。なお本稿で論じることができなかった子ども会活動については、稿を改めて論じる予定である。

[文献]

- 高知市教育委員会 2002「平成14年度 子どもよさこい支援事業（冊子）」 Minami風一南海中学校
- 高知市教育委員会 2003「平成15年度 子どもよさこい支援事業（冊子）」
- 高知市教育委員会 2004「平成16年度 子どもよさこい支援事業（冊子）」
- 南海中学校 2002『Minami風一南海中学校－感想文集』（冊子）
- 南海中学校 2003～2010『Minami風一南海中学校 業務必携』（冊子）
- 高知商工会議所 『よさこい読本』第1号（1992）～第24号（2015）
- よさこい祭り振興会 1973『よさこい祭り20年史』／よさこい祭り振興会 1994『よさこい祭り40年』
- よさこい祭り振興会 2004『よさこい祭り50年』 年／よさこい祭り振興会 2015『よさこい祭り60年』（CD-ROM）
- 高知新聞 「出場チーム紹介」第30回（1983年）～第62回 （2015年）
- 高知新聞「よさこいの未来君たちに」2013年 8月12日／高知新聞「鳴子踊り小学校で健在」2015年 9月25日
- 高知新聞「県人口高知市集中化進む」 2015年 9月24日
- 高知新聞「よさこい10年目 有終の美：高知市・南海中チーム」 2011年 8月 9日

[基本参考文献]

- 岩井正浩 2006『これが高知のよさこいだ！』 岩田書院
- 岩井正浩 1998「音楽行動としての祭り～現代人の＜癒し＞行動」 神戸大学発達科学部研究紀要第5巻第2号
- 岩井正浩 2001「よさこい鳴子踊進化論序説」 神戸大学発達科学部研究紀要第8巻第2号
- 岩井正浩 2003「よさこい鳴子踊進化論（2）：2002年・高知」 神戸大学発達科学部研究紀要第10巻第2号
- 岩井正浩・他 2004「よさこい鳴子踊進化論（3）：第50回よさこい祭り」神戸大学発達科学部研究紀要第12巻第1号
- 岩井正浩 2005「よさこい鳴子踊進化論（4）：100会大会への序曲」 神戸大学発達科学部研究紀要第12巻第2号
- 岩井正浩 2006「よさこい鳴子踊進化論（5）：「上町」の地方車から」 神戸大学発達科学部研究紀要第13巻第2号
- 岩井正浩 2007「よさこい鳴子踊進化論（6）：「帯屋町」の地方車から」神戸大学発達科学部研究紀要第14巻第2号
- 岩井正浩 2007「よさこい鳴子踊進化論（7）：町内会・商店街チームの展開」神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要第2巻第2号

[写真1～10](南海中学校提供)



写真1：鳴子製作①

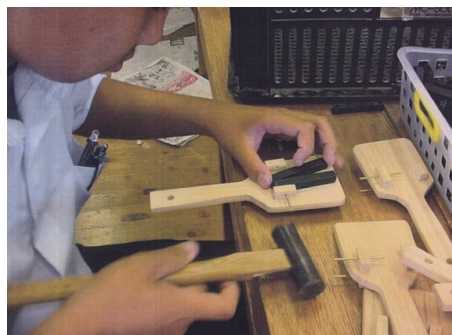


写真2：鳴子製作②



写真3：地方車



写真4：地元での演舞



写真5：地方車司令塔①



写真6：地方車司令塔②



写真7：帯屋町アーケード①



写真8：帯屋町アーケード②

表1：子どもチーム（第1～62回）の参加

『高知新聞出場チーム紹介』を基に作成：岩井正浩

*1～29回は①『よさこい50年』・『同60年』（よさこい祭振興会）。30回以降は②「高知新聞出場者紹介」

出場回数は①と②で異なる箇所もあるため、基本的には②に従った。

*上町よさこい踊り子隊、梅ノ連、菜園場踊り子隊、の町内会連は主体が子どもであるが、ここでは除外した。

【子ども会チーム】

愛宕町子供組（13人） 第1⇒1回 / 朝日座通り子供会（35人） 第4⇒1回
 あさひ子どもよさこい踊り子隊あさひNはっぴいまいす（60人） 第57～62⇒6回
 安芸町連合子供会（80人） 第30、31[安芸子供会連合会、32～43[安芸市子ども会連合会、44～61[安芸市子ども会連合会”あき童子”]、62⇒24回
 高知市子ども会連合会（150人） 第26、27[高知子ども育成会連合会、28、29、30～62⇒37回
 高知子ども劇場（100人） 第32、33、34、37、38、39⇒6回 / 五台山校区子ども会（80人） 第38、39、40～62⇒25回
 安芸市子ども会踊り子チーム（80人） 第44、45、50[安芸町子ども会連合会]、51、52、53、56、57、58⇒11回
 大津市子ども会連合会（100人） 第34、35[大津市子ども会踊り子隊]、36[大津市子ども会連合会、38～62⇒29回
 帯屋町ジュニア隊（100人） 第35～62⇒28回 / 枝川土曜子供会（150人） 第47～55⇒9回
 土佐鶴子供チーム（34人） 第20⇒1回 / 香南市こどもよさこい連合会（150人） 第55～61⇒7回
 介良子子ども踊り子隊（90人） 第57～62⇒11回 / 菜園場町子供組（45人） 第2、3⇒2回
 すみれ子供育成会（60人） 第20、21[鴨部すみれ子供育成会、24、25、27、28、30、31[すみれ子ども会、32～36[鴨部すみれ子ども会]、37、38、39[すみれ子ども会育成会、41、42、43⇒27回
 高須子ども会（60人） 第39、40[高須子ども会連合会、41、43、44、45、46[高須なるこ踊り子隊]、47～62⇒24回
 中須賀東ノ町子供会（21人） 第2、3⇒2回 / 西新屋敷子供会（100人） 第23⇒1回

【保育・幼稚園チーム】

くるみ幼稚園（108人） 第29、30、31（くるみ幼稚園土居学園）、32～62⇒37回 / 岩村保育所（40人） 第47⇒1回
 学校法人龍馬学園（79人） 第44、45[龍馬学園ネットワーク]、46～50[龍馬学園ネットワークさくらい幼稚園]、51
 52[龍馬学園ネットワーク桜井&芸術]、53、54、55[学校法人やまもも学園桜井幼稚園 芸術学園幼稚園]⇒12回
 *この12回は以下の2チーム（桜井および芸術学園）に含まれている。
 学校法人やまもも学園桜井幼稚園（120人） 第56（やまもも学園が分離）、57～62⇒24回
 学校法人やまもも学園芸術学園幼稚園（130人） 第56（やまもも学園が分離）、57～62⇒24回
 学校法人平成学園（150人） 第46～50[学校法人平成学園ひまわり・あとも幼稚園]、51～62⇒17回
 私立幼稚園みさと・くるみ連合（150人） 第28⇒1回
 杉の子幼稚園後援会（70人） 第29、30、31[杉の子三園ちびっこ隊]、32～62⇒31回 / もみのき幼稚園（76人） 第61⇒1回
 龍馬学園グループ桜井・芸術学園幼稚園合同親子チーム（150人） 第44⇒1回
 春野乳児保育園（130人） 第48、49、51、52、53、54、55[認定こども園春野乳児保育園]、56、57、58、61、62⇒13回
 みさと幼稚園（86人） 第29、30、31[沢田学園みさと幼稚園]、32～62⇒35回
 みかづき第二幼稚園（90人） 第29、30～62⇒34回 / みかづき幼稚園（100人） 第31～62⇒33回

【障害者チーム】

県ろうあ者協会（50人） 第31、32[高知県ろうあ協会]、33⇒3回
 合同チームき・ら・り（150人） 第50、51、52、53[よさこいチームき・ら・り]、54[き・ら・り]、55～62⇒13回
 児童施設連合つくし（150人） 第28、29、30、31、32、33、34、35、36[つくし]、37～61⇒35回
 知的障害児ももぞの学園チーム（70人） 第47、48⇒2回
 てんてこ舞よさこいバリアフリー実行委員会（150人） 第46～62⇒17回
 日高養護学校にこにこ隊（100人） 第50～55、56、57、58、61、62⇒12回

【小・中学校チーム】

Minami 風一南海中学校（100人） 第49～58⇒10回 / 旭中学校（80人） 第50～55⇒6回
 いの南元気連（伊野南小学校PTA）（150人） 第47、48、49、50、51⇒6回 / 香我美小踊り子隊（100人） 第52⇒1回

【その他チーム】

サニーグループよさこい踊り子隊SUNNYS（150名） 第54、55、56、57、58、59、60、61、62（54回から子ども）⇒9回
 STUDIO・K with R（58人） 第61⇒1回
 スガジャズダンススタジオ・SUGA よさこいちびっこ隊（100人） 第35、42[須賀よさこいちびっこ隊+リトルプレイヤー]、43、51[よさこいこっぽん須賀連ちびっこ隊]、52、53、54[須賀連ちびっこ隊]、55、56[須賀連&須賀連ちびっこ隊]、57、58、61[須賀 IZANAI 連レインボーチルドレンプロジェクト]⇒12回
 ジュニアジュームナスティッククラブ（60人） 第38、39、40、41、47、48、50～55⇒12回
 四国中央市ジュニア隊（80人） 第51、52[伊予からの風純言連ジュニア隊]、54、55⇒4回
 ツインズランド（53人） 第43～50⇒8回 / ちびっこよさこい（100人） 第47⇒1回

こども高知新聞 (30人) 第9、12、13⇒3回 / ガールスカウト高知県第二団 (50人) 第30、31、32、33⇒4回
ガールスカウト高知県第四団 (50人) 第30〜41⇒13回 / ガールスカウト高知県第七団 (150人) 第45⇒1回
ボーイスカウトしばてん連 第15、16、50 / ボーイスカウト高知第8団⇒3回

表2：子どもチームの出場＝〔(1)Minami 風―南海中学校。(2) 合同チーム き・ら・り。(3) 旭中学校〕

『高知新聞出場チーム紹介』(第30回大会 1983年より掲載開始) 【作成：岩井正浩】

(1)Minami 風―南海中学校 (2002年 初出場) (※左端は開催回数、左2列目は参加人数)

- 49回=94人。公立中学校では初参加! 「南」・「風」をさわやかなブルーの衣装で表現。中学生らしく元気に踊ります!
- 50=100人。「風」のように舞い、太陽のように熱くなれ」。生徒自身が地方車と衣装をデザイン。手作りの鳴子で南風のように踊ります。
- 51=100人。今年は沖縄風。音楽は三線を取り入れ、衣裳も黒い花柄の入った紅型(びんがた)。明るい自然をイメージし、風になります。
- 52=100人。鳴子はすべて手作り。一人一人の努力とたくさんの援助で、よさこい参加までこぎ着けました。全員の思いを乗せて踊ります。
- 53=100人。テーマは「瞬」。吹き抜ける南風のように、スピード感のある踊りを見せます。鳴子も法被も手作り。今年もがんばります。
- 54=100人。テーマは「華麗」。赤や金をちりばめてゴージャスに背伸びしてみました。よさこいへ、地蔵の人たちへ、感謝の心を込めて楽しく踊ります!
- 55=100人。「風のごとく舞う」がテーマ。踊りを見ている人に南風のようなさわやかな感動を与えたい。高知の葵海をイメージした衣装も注目してください。(2008年。7回)
- 56=100人。支援してくれた地域商店街や保護者らに感謝を込めて、テーマは「心」。手作り鳴子や鉢巻で、あふれ出す中学生パワーが土佐の風とともに力強く舞い踊る!
- 57=105人。これぞ生粋のよさこい中学生! 木製鳴子も波を描いた地方車も生徒が心を込めて作り上げました。沖縄民謡風の楽曲で一致団結、オレンジ衣装がはじけます。
- 58=136人。今年が最後のよさこい参加になります。10年間の思いを込め、風、海をイメージさせる「疾風怒濤」がテーマ。感謝の気持ちを込めたファイナルを飾ります。(2011年。10回)

(2)合同チーム き・ら・り (2003年 初出場)

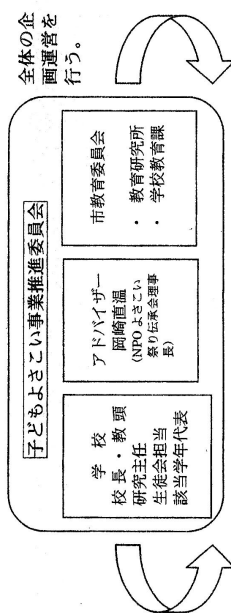
- 50回=150人。きらりと輝く笑顔。「よさこいビック」で知り合った障害児学級の児童らが再結集。よさこいに新たな風を巻き起こす!
- 51=130人。高知市内の養護学校と障害児学級合同チーム。地方車に踊り子の自画像を飾り合唱しながら踊ります。笑顔がきらり、一人一人が主人公。
- 52=88人「宇宙(そら)」にとどけ、ぼくらの光り。県内の障害児を中心に、自分のペースで踊ります。元気に笑顔がきらります。
- 53=75人。障害児学級の仲間で作る「き・ら・り」。踊りも変わり、気分も一新。暑い中で練習した成果が「キラリ」と輝きますように! (4回/「よさこいチーム き・ら・り」)。
- 54=80人。障害児学級の仲間で作るチーム。星形の鳴子がきらり、踊りと笑顔がきらり☆ お祭りの中の輝きは、みんなをたくましくするのです! (5回/「きらり」)。
- 55=80人。星形鳴子と踊り子の笑顔が、あっちこっちできらきら☆ 障害のある子もない子も、個性いっぱい踊ります。力強い80個の星を見れば、あなただけの笑顔も光るはず。(2008年。6回)
- 56=60人。テーマは「笑顔はき・ら・りでSHOW」。よさこい好きな子どもたちと一緒に、今年はモンゴルの留学生も参加。どこにも負けない元気な笑顔がキラッ! (7回)
- 57=60人。特別支援学校の生徒らで結成。よつちよれから始まってヒップホップのアレンジ。みんな笑顔のチーム。これがきらりの姿なり。星形の鳴子も要チェック! (8回)
- 58=74人。障害児・者も健常者も関係ないバリアフリーの踊り。今年もたくさんの方のサポートがあり踊ることができます。感謝の思いを胸に幸せな笑顔を届けます。(9回)
- 59=90人。みんなの笑顔と心がきらりと輝く。障害児・者も健常者も関係なく一緒に踊ります。オレンジとブルーの衣装で、テンポの速い曲にのってダイナミックに舞います。(10回)
- 60=80人。障害児学級の仲間たちが集まったチーム。「みんな一緒に!!」の思いを胸に、自由に元気いっぱい踊ります。久々に取り入れる星形の鳴子にも注目を。(11回)
- 61=80人。見てほしいのは、チームオリジナルの星形鳴子。「ぼくらのえがお★みんなでキラリ」をテーマに、元気に楽しく躍りきるぞ! (12回)
- 62=80人。伝統の星形鳴子は今年も健在。元気に笑顔で踊っている姿をお見せします。自分たちで描いた絵がちりばめられた地方車と、思いを込めた歌詞は必見。(2015年。13回)

(3)旭中学校 (2003年 初出場)

- 50回=80人。「静」から「動」へ。燃えるような激しさで「旭魂」をお見せします。熱心に取り組んできた生徒一人一人の輝きを見て!
- 51=80人。「静」から「動」、そして「静」へ。花のように、チョウのように、美しく元気に舞い踊ります。生徒一人一人の輝きを見てください。
- 52=90人。白いTシャツやタンクトップに7色の虹色ズボンをはいて、サンバのリズムで踊りまわります。旭中生の果てしないパワーを見よ!
- 53=90人。卒業を控えた3年生を中心に、みんなが納得いくまで練習。親と子、先生の団結力の極みをぜひ、見てください。
- 54=60人。地方車は100%手作り! 踊りの売りは、ズバリ、元気さ、フレッシュさ♥美しく、かわいらしく踊り回る旭スピリッツをご覧ください!
- 55=70人。レゲエをベースにした明るくリズム感にあふれる曲に乗って踊る「勇気りんりん」の旭中生。徐々に激しさを増し最後にはじける元気な笑顔を要チェック! (旭中学校踊り子隊) (2008年。6回)

表 3 : 「平成14年度組織図」

② 組織



プロジェクトよさこい南海中実行委員会

☆ 教職員

- 研究部 (6)、管理職 (1)、養護教諭 (1) 該当学年代表 ()
- 各部の役割り分担を決定し、それぞれに教職員が入る。
- ・ 衣装部 (衣装のデザイン、発注)
 - ・ 指導部 (踊りの指導、全体指導)
 - ・ 地方車部 (地方車のデザイン、製作)
 - ・ 報道、記録部 (宣伝、広報、取り組みの記録)
 - ・ 本部 (総括、会計)

☆ 生徒

- 生徒会執行部、各部キャップ
- ・ 踊り子部 100 人
 - ・ 衣装部 10 人
 - ・ 地方車部 20 人
 - ・ 記録部 10 人
- ※ およその人数
- ※ 各部に生徒会執行部が分かれて入る。

表 4 : 「衣裳部」

⑥ 生徒の取り組みから

衣裳部

よさこいプロジェクト

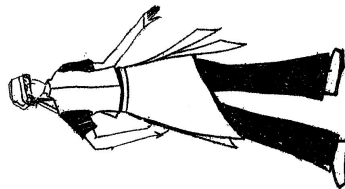
衣裳最終決定 !!

よさこい実行委員会メンバーと2、3年生の踊り子リーダーに集まってもらい、衣裳の検討会を持ちました。

できて来た見本の衣裳を着て、2年の踊り子リーダーが、スラバヤの歓迎セレブションで踊った感想や、踊りのビデオを見ました。また衣裳部からは、実際の衣裳見本をもとに、布地の改善、色の変更、柄の変更を出し、予算内でできるプロのデザイナーがデザインしてくれたデザイン画も2点提示し、集まったメンバー全員で衣裳の改善点を話し合いました。

その結果、前あわせ、襟の部分は、制作コストが高くなるホックなど手縫いの部分がないう形に変更し、全体的にロングなイメージを強しつつ、上と下に分けた形に変え、踊ったときに布がゆれてきれいにみえるようなデザインに決定しました。そして、色や柄は、青を基調とし、コストのかかる波のような柄はやめてチーム名「Minami 風」だけを背中に入れることに決定しました。

(※制作してもらう中で、決定したデザインから形等が多少変更になることはあります。)



(字体の変更はありませ)

※ 開ったあとの衣裳は学校で保管します。

※ 頭を日差し等から保護する必要もあるので、頭にバンダナみたいなものを巻きます。

表6:「踊り子部」

表 8：「月別活動計画2007」

Minami風2007 月別活動計画			2007.131
月	PY実行委員会	Minami風チーム	合
11月	※2007スタッフ案 諸依頼先検討 ※2007の主な方針案 ※2006まとめ冊子案 ・日程案作成 2006年度参考	・2年Minami風オリエンテーション ・2年企画委員募集	・よさこい参加提案 ・☆支援部の説明 ・2年Minami風オリエンテーション
12月			
1月		※年の企画委員・3学期代表委員 新企画委員の決定（職員にて確認）	・祭りについての学習 ※12年の内容検討
2月	・PY実行委員会にて来年度の活動計画の検討 ・コンセプト・イメージの検討 ・Minami風各委員会	・2年各部希望調査とキャップ決定 ・2007の盛り組みについて ・2007の盛り組みについて ・Minami風各委員会	
3月	・2007年度支援部報告 3月PTA役員会後 PY実行委員会 予算案作成 諸依頼先決定⇒予約演奏音楽・振り ※2006まとめ冊子作成	第1回 Minami風実行委員会 2年企画部+キャップ	・2007コンセプト決定 第1回 Minami風実行委員会 2年企画部+キャップ
4月	第1回 PY実行委員会(仮) Minami風2007提案と承認 (始め職員会) 実行委員会昇格・スタッフ確定 予算案作成・音楽・衣装案者再検討	第2回 Minami風実行委員会 1・2年代表委員を含む 1年向けオリエンテーション Minami風2007コンセプト発表 ※3年各部最終決定	1年Minami風オリエンテーション ・ヨシ（学校行事などのオリエンテーションの中で）
5月	第2回PY実行委員会 音楽・衣装・地方デザイン決定	第3回Minami風実行委員会(特約) 音楽・衣装・地方デザインの制作開始 振り練習 楽器・衣装・地方車の制作開始	学年別取り組み開始 楽器・衣装・地方車の制作開始 振り練習
6月	保護者・地域への働きかけ ※参考日・PTA総会 各催祭りの確認 第3回PY実行委員会 各催祭りの中継手配 ※申し込み締め切り 6月始め ボスター掲示・資金確保作戦開始	第4回Minami風実行委員会 (12年の参加の仕方・資金確保 作戦について) 楽器・衣装・地方車の制作 振り練習 振り子募集ー締め切り ボスター掲示・資金確保作戦開始 ・12年の各部活動の見学と参加	1年Minami風オリエンテーション ・楽器・衣装・地方車の制作 振り練習 ・12年の各部活動の見学と参加
7月	第4回PY実行委員会 ・資金確保作戦確認 ・衣装仕上がり 振り練習 ・振り本番までのスケジュール作成 第5回PY実行委員会 と最終チェック 第6回PY実行委員会 ・楽器・衣装・地方車の制作 振り練習 ・12年の各部活動の見学と参加	第5回Minami風実行委員会 ・資金確保作戦確認 ・楽器・衣装・地方車の制作 振り練習 ・12年の各部活動の見学と参加	楽器・衣装・地方車の制作 振り練習
8月	本番(10-11日) 片付け・反省会(12日) ・礼状送付(最終週)	地方車制作・完成 振り練習 ※部活動との両立 本番(10-11日) ※礼状作成 ・総文提出 ・各区分直	地方車制作・完成 振り練習 ※部活動との両立 本番(10-11日) ※礼状作成 ・総文提出 ・各区分直
9月			南中祭発表に向けて取り組み
10月			南中祭発表

Minami風2007 組織図案 NEW

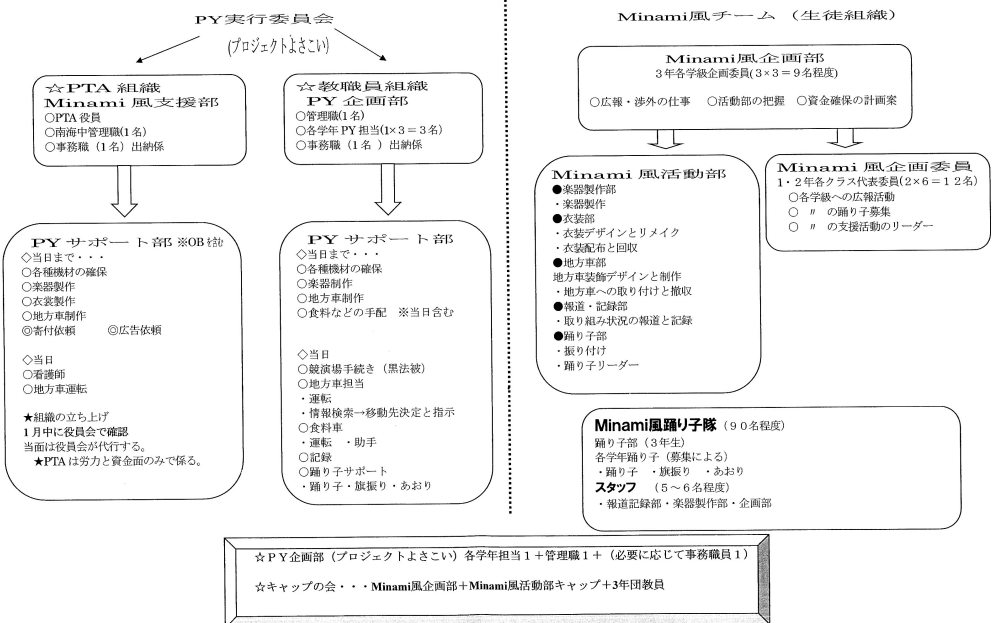


表 7：「組織図2007」

表9：「役割分担2010」

6. 役割分担表 Minami 風 2010 【係りの仕事】

Minami 風チームに関わる指導は3年団が中心となる。			
Minami 風	仕事	3年団	他
企画部	校外へのアピール・各種届け出・資金調達 取材依頼・各機関への申し込み・参加申し込み ※各部の活動の把握とリード ※校内へのアピール	岡林	吉岡 平松 藤崎 田所
楽器製作部	鳴子のデザイン、制作(100組) 制作手法の記録	岩松辰	明神
衣装部	新しい衣装のデザイン・衣装の発注 リメイクデザインと材料の購入・リメイク	式地	岩松(淑) 林・野口
地方車部	地方車のデザイン・材料の購入 設計図作成・模型制作・地方車制作	永原	濱口 宮地真
報道・記録部	情報宣伝活動(ポスター、プリント、ビデオ、写真) 校内外へのアピール・取り組み記録と編集 各取材への対応	藤本	西山
踊り子部	踊り子の指導・練習計画作成・踊り練習 振り落とし参加・隊形、指導方法を考える 踊りの記録を残す	胎中・岡林	川村・徳橋 青屋・澤本・宮 地安

○全体に関わる仕事

仕事	仕事	教員
会計	事業予算(委員会・PTA他から)	山下
踊り子募集	踊り子募集と名簿作成 ※Minami 風企画部	PY実行委員会・藤崎、岡林
練習日程	踊り子振り落とし、練習日程作成	岡林
飲食物手配	食事と飲み物の手配	山下
連絡方法	踊り子の家庭の連絡方法確認	各担任
健康管理	家庭の連絡先と保険証番号の確認	坂本
演舞場選択	演舞場の選択と行程計画	PY実行委員会
申し込み	代表者会の参加 各種届け出、アンケート、 申請、申し込み実務	PY 実行委員会
当日日程	タイムスケジュール作成	PY実行委員会
スタッフ配置	当日のスタッフの配置と調整	PY実行委員会

○必要な仕事

- ◆予算の事務的な執行手続き…山下 ◆インストラクターの派遣依頼…H21年度
- ◆トラック発注…H21年度 ◆照明・発電機発注…H21年度 ◆PA発注…H21年度
- ◆代表者会の参加…澤本
- ◆各種レンタル機器貸し出し返却…村上・藤崎・秋山
- ◆春野での機材外し…澤本

表10：「当日の仕事2010」

7. 当日の仕事

仕事	仕事	内容	教員
引率	踊り子と同行する ・人数確認を行う ・連絡と食料の世話	1号車：永原・宮地(真) 2号車：徳橋・岡林	踊り子の教員 その他
踊り子隊指揮	踊り子隊を先導しながら指揮をする		岡林
リサポーター	踊り子隊と同行しサポーターする。鳴子の補助。 移動の際の生徒の誘導。		岩松淑・西山・宮地安
あおり指導	あおりの指導		藤崎・平松・岡林
地方車運転	地方車を運転する(トラックとともに依頼済)		村上
リ同乗	状況を見て演舞場を選ぶ司令塔		藤崎・田所
リから伝達	地方車から踊り子へのメッセージ		田所
地方車誘導	地方車を演舞場周辺で誘導する		藤崎
連絡調整	演舞場の混雑や移動時間との連絡調整 緊急時の対応(学校待機者、家庭との連絡)		田所
バスとの連絡	バスの運転手と連絡を取り、踊り子隊にバスの乗降地(真) 車場所の伝達と誘導		濱口・山下
飲食物係り	飲食物の運搬と配布		坂本・林
健康管理	後続の救急車に乗って傷病者の対応をする 家庭との連絡		山崎
学校待機	学校に待機し緊急時や外部との対応をする		野口(10日) 藤田 嶋内・澤本(11日)
記録	踊り子に密着し記録(VTR、写真)する		藤本
演舞場申し込み	各演舞場で申し込み手紙をする ※指定の法被を着る		藤崎

※踊り子の中心となる23年団は、できるだけ踊り子に近い位置での係りを行なう。
衣装を着られない先生方は当日、Minami 風Tシャツ、パンツ(半ずきんも可)をお願いします。

踊り子の教員(バスに乗車)

- 1年・・・青屋・
- 2年・・・川村・徳橋・明神
- 3年・・・岡林・胎中・(永原)・(式地)・(岩松)
- 4年・・・吉岡(11日)・澤本(10日)

サポータースタッフの移動の手段

- ① 地方車・運転席：村上 (藤崎)・(田所)
- ② 食料車・・・濱口・山下
- ③ 救急車・・・坂本・林
- ④ バス・・・1号車：永原・宮地(真)
2号車：徳橋・岡林

※食料車・救護車はバスとはと同行する。ピストン運転はしない。 地方車にも水分を積み込む
☆専用クーラー(飲み物と水) ☆ビニールシートと工具 ☆脚立 (大1脚ずつ)
・詳しくは「当日必要ツールリスト」で確認！